

## <参考> 0歳児から2歳児の発達過程

保育所保育指針では、発達過程に応じた保育として「三歳未満児については、一人一人の子どもの生育暦、心身の発達、活動の実態等に即して、個別的な計画を作成すること。三歳以上児については、個々の成長と、子ども相互の関係や協同的な活動が促されるよう配慮すること。」と示されています。

そのため、ここでは、保育所や認定こども園において、3歳未満児の個別的な計画を作成する際に参考となるよう、0歳児から2歳児の発達過程を例示しました。

0歳児の発達（新生児～56日頃）		
学びの芽生え	思考 言葉 創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機嫌のよいときに、周囲に反応したり、体の動きに伴って「アーアー」「ウーウー」など喃語が表れたりする。</li> <li>・明るい光や音がする方に反応を示す。</li> </ul>
人とのかわり	協同 信頼 規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あやされると、機嫌よく笑ったり声を出したりする。</li> <li>・大人に抱かれたり、受容されたりする心地よさを感じる。</li> <li>・大人にあやされて泣きやむ。</li> <li>・快（授乳後、目覚め、入浴後、あやされているときなど）と不快（空腹、眠い、おむつが汚れているときなど）の様々な感情を、泣くなどの行動や表情で表す。</li> </ul>
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母乳やミルクを飲むとき、排せつ時以外はほとんど眠っている。</li> <li>・母乳やミルクをよく飲む。</li> <li>・眠りに入るようなまどろんだ状態のときや、浅い眠りの状態のときに、口角が上がってほほえむ。（自発的微笑・生理的微笑）</li> <li>・手指を口に持っていき、なめる。</li> <li>・おむつを替えるときや入浴時に手足を動かす。</li> <li>・哺乳びんを支えるような動きを見せる。</li> <li>・物を持たされると、固く握りしめる。</li> <li>・自然に寝ている姿勢は、顔をいずれか一方に向け、腕は肘で曲げてやや握った状態である。</li> <li>・目覚めているときは、両手を身体の横に伸ばしたり、手足を盛んに動かしたりする。</li> <li>・新生児の視野にものを差し出し、それを動かすと目で追う。</li> <li>・保育者の顔など目の前のものをじっと見つめる。</li> <li>・大人のまねをして舌を突き出すなどの模倣行為を行う。</li> <li>・物音にびくつしたり目を覚ましたりする。</li> </ul>

### <援助のポイント>

- ・身体的な欲求が満たされるとともに、温かな働き掛けで満足感や安心感を味わえるようにする。
- ・新生児は心身ともに未熟で抵抗力が弱いので、清潔で安全な環境づくりや、衛生管理に努める。
- ・視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚といった諸感覚や感受性が芽生えるため、様々な感覚に働き掛けるようにする。
- ・新生児の動きや表情を読み取り、その子供のリズムやテンポに合わせて、会話を楽しむようなつもりで働き掛ける。その際、正面からかわるようにする。
- ・乳児突然死症候群(SIDS)のリスクを防ぐため、仰向けの姿勢で子供を眠らせるようにし、一定の間隔で寝ている姿勢を確認する。また、柔らかいまくらや重い毛布等、呼吸を妨げるようなものは使用しないようにする。
- ・皮膚を乾いた状態に保つため、おむつを頻繁に取り替えたり、授乳やよだれによる口の周りの汚れを、こまめに拭き取ったりする。

### <家庭との連携>

- ・育児の楽しさや大変さなど、保護者の気持ちに寄り添い、支える。
- ・様々な理由で泣き、温かく対応してもらうことで愛着が育ち、コミュニケーションにつながっていくことを伝える。生理的な欲求を満たすとともに、声を掛けたり、スキンシップをしたりするなどの対応の仕方や大切さを知らせていく。
- ・乳児突然死症候群(SIDS)の予防など、この時期に気を付けることを知らせる。

## 0歳児の発達（56日頃～3か月頃）

学 び の 芽 生 え	思考  言葉  創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鼻から出ていた音声は喉からも出るようになり、母音に喉子音が結び付いた発声も聞かれるようになる。</li> <li>・光（明るい光、優しい光など）に反応する。</li> </ul>
人 と の か か わ り	協同  信頼  規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不快感が芽生え、空腹になったりおむつが汚れたりすると、目覚めて泣く。</li> <li>・抱かれて、泣きやんだり安心した表情になったりする。</li> <li>・音や話し声のする方に顔を向けようとする。</li> <li>・あやしたり話し掛けられたりするとよく笑うようになる。</li> </ul>
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣  運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の中で眠りと覚醒が何度も繰り返され、昼夜の区別がはっきりしない。</li> <li>・よく眠っているように見えても、脳波の半分は眠っていない状態なので、眼球が動いていたり、顔や手指がピクピク動いたりする。</li> <li>・舌の前後の運動で、ミルクをよく飲むようになる。</li> <li>・手の指を硬く結んでいる状態から、徐々に握りがゆるくなり、手のひらに置かれたものを握るようになる。</li> <li>・首がすわり始める頃は、仰向け姿勢で正面を向くようになり、自分で少し首を動かして左右を見回すようになる。</li> <li>・うつ伏せの姿勢にすると、頭を少し持ち上げる。</li> <li>・引き起こしに頭が少しずつついてくるようになる。</li> <li>・仰向け姿勢で手と手、足と足を触れ合わすなど、正中線に向けて内側方向に対称的な動きをするようになる。</li> <li>・手と手、手と口の協応ができ始める。</li> <li>・周囲の動くものを目で追う。</li> </ul>

### <援助のポイント>

- ・保育者の愛情豊かな受容によって、情緒が安定していく。担当の保育者を決めて、愛着関係を育むとともに、一人一人の生活リズムに合わせて生理的要求を満たし、気持ちよく過ごせるようにする。
- ・温度変化に弱く、体温の失調（発熱、低体温）や新陳代謝の異常を起しやすいため、細やかな室温、換気、湿度調節をする。音や光などを考慮し、静かな環境で安定して過ごせるようにする。
- ・病気に対する防衛機能が未発達なので衛生面に留意し、体調の小さな変化に気付くようにする。
- ・一人一人の授乳時間や間隔を把握し、おおむね3時間ごとを目安に授乳する。
- ・自分で寝返りをするようになるまでは、仰向けで寝かせ、睡眠中の窒息、突然死などの事故予防をしっかりと行う。
- ・2か月頃から腹ばい姿勢にして過ごす時期が始まる。腹ばいや寝返りの始まる時期は、特に危険なため、目を離さないようにし、下は硬い状態にする。

### <家庭との連携>

- ・連絡帳のやり取りやお迎えの時間に温かく対応し、保護者との信頼関係をつくっていく。
- ・家庭での様子を聞いたり、保育中の睡眠、授乳、排せつ、機嫌、行動の様子などを伝えたりして、情報を共有していく。
- ・ミルクの量や授乳にかかる時間は個人差が大きいので、個々に合わせて哺乳びんの乳首のサイズなどを、保護者と確認していく。

## 0歳児の発達（3か月頃～6か月頃）

学 び の 芽 生 え	思考  言葉  創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・唇を閉じて音を出せるようになり、音節の繰り返しが始まる。</li> </ul>
人 と の か か わ り	協同  信頼  規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人の顔が分かり、あやされると声を出してはしゃぐ。</li> <li>・初期の人見知りが始まる。</li> <li>・自分から相手にほほえみかけるようになる。</li> <li>・周囲の親しい大人が分かるようになり、泣いても保育者があやすと安心して笑顔になる。</li> </ul>
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣  運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胃の入口がしっかりして、授乳後の溢乳が減ってくる。</li> <li>・舌の前後の運動に加えて顎の動きを連動させて、母乳やミルクを飲む。</li> <li>・よだれが出始める。</li> <li>・果汁やスープなどの準備食を開始する。 （目安は、授乳リズムが3時間半～4時間、体重が7kg前後になり、支え座りをするようになる頃）</li> <li>・味覚が芽生え、味の違いが分かり始める。</li> <li>・眠っているときと目覚めているときがはっきりと分かれ、昼夜の区別が付き始めてリズムが定まってくる。</li> <li>・体温調節は安定し始めるが、まだ、周りの温度の影響を受けやすい。</li> <li>・腹ばいにすると肘で上半身を支えることから、徐々に上体を持ち上げるようになる。</li> <li>・目と手の協応が始まり、見たものに手を伸ばすようになる。</li> <li>・体の正中線上で両手を絡ませる。</li> <li>・親指が外側に出て、物をしっかりと握れるようになる。</li> <li>・足で空間を蹴るようにして腰をひねり、寝返ろうとする。</li> <li>・引き起こしに頭が遅れないで上がり、両足も対称的に腹部に引き寄せるようになる。</li> </ul>

### <援助のポイント>

- ・必要に応じてクッションなどを用意して、腹ばいや一人座りを援助していく。
- ・着替えや沐浴、おむつ交換などで身体の健康を保ち、「快」の感覚を育てる。
- ・なめる、かむ、しゃぶるなどで感覚器官が発達する時期なので、玩具などで十分に満足できるようにするとともに、使う物は個別にし、使ったらその都度、清潔にしておく。
- ・個人差に応じて睡眠がとれるように環境を整える。
- ・優しい言葉、声、まなざし、笑顔での働き掛けなどを通して、子供の情緒の安定や人との心地よいかかわり、周囲への関心を育てていく。

### <家庭との連携>

- ・昼は起きて明るい所で生活し、たっぷり遊んでよく飲み、夜は暗くして眠るなど、生活のリズムをつくっていく大切さを、個人差に応じて伝えていく。
- ・成長の変化が目覚ましい時期である。保護者と成長を喜びながら、家庭で気を付けること（子供の手の届くところに危険な物は置かない、子供は大人が予想する以上に動くことを考慮する、起きているときには応答的にかかわる、準備食の内容やタイミングなど）を知らせ、保護者が安心して子供の動きたい欲求に応えたり、離乳食への移行を行ったりできるようにする。

## 0歳児の発達（6か月頃～9か月頃）

学 び の 芽 生 え	思考  言葉  創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物を落とすなど、気に入ったことを繰り返して遊ぶ。</li> <li>・名前を呼ばれると振り向く。</li> <li>・引出しの中の物を引っ張り出して遊ぶ。</li> <li>・言われていることをだんだんと理解できるようになってくる。</li> <li>・「アバババ」など言葉を繰り返すことで音をつなげて話す。</li> <li>・大人の口元を見てまねる。</li> <li>・戸外に出ることを喜ぶ。</li> <li>・機嫌がよいと一人遊びをする。</li> <li>・曲に合わせて体を動かす。</li> <li>・周囲の物を触ってみたり口に持っていったりする。</li> </ul>
人 と の か か わ り	協同  信頼  規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人のまねが上手になってくる。</li> <li>・同じことを何回も繰り返すことを喜ぶ。</li> <li>・知っている人を見ると抱いてもらいたがる。</li> <li>・いやいや、バイバイなどの動作をする。</li> <li>・要求があると声を上げる。</li> <li>・人見知りをしたり後追いをしたりする。</li> <li>・つくり笑いや愛想笑いをする。</li> <li>・名前を呼ばれると応じる様子がある。</li> <li>・人の動きを目で追う様子がある。</li> </ul>
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣  運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人が手を添えるとコップを持って飲む。</li> <li>・椅子に座って食べる。</li> <li>・前歯で食いちぎって食べたり、舌を使ってつぶして食べたりする。</li> <li>・午前と午後、大体同じ時間に寝起きをするようになる。</li> <li>・背中を反らして手足を上げる。（グライダーポーズ）</li> <li>・うつ伏せの状態で爪先で床を蹴り、反対の手で体をねじってお腹を中心に左右に回転する。（ピボットターン）</li> <li>・寝返り、はいはい、お座り、つかまり立ちなど活発に動くようになる。</li> <li>・支えて立たせると足を踏ん張る。</li> <li>・指先で物をつまんだり、手を打ち合わせたりする。</li> </ul>

### ＜援助のポイント＞

- ・安全で活動しやすい環境の中で、はう、つかまり立ちをする、座るなどを十分にできるようにする。
- ・食事に対する意欲が徐々に見られるようになってくるので、手に持てる物は持たせるようにする。また、保育者が先回りをせず、食べたい物への指差しなど子供からの要求を待ち、子供の意思や意欲が高まるようにしていく。
- ・触ったものを口に運ぶ時期なので、安全と衛生に留意しながら、十分な探索活動ができる環境を整える。
- ・遊びや生活を通して具体的に身の回りの物の名前、動作などを語り掛けていく。
- ・人見知りや後追いをする時期である。子供が不安を表したときは、抱きしめるなど温かく受け止めて子供が安心感をもてるようにする。

### ＜家庭との連携＞

- ・ピボットターンの際、爪先で蹴るという行動をたくさんすることが、その後のはいはいや歩行に向けて重要になる。また、衛生、安全面に気を付け、子供が十分に動く楽しさを味わうことの大切さを伝える。
- ・離乳食を進めるに当たり、家庭でもアレルギー反応などがないか確認してもらい、連携を取り合う。
- ・母子免疫が消滅する時期であり、発熱など病気感染が頻繁になるため、病気の予防法や知識などの保健指導を行っていく。

## 0歳児の発達（9か月頃～12か月頃）

学 び の 芽 生 え	思考  言葉  創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いないいないばあ」をして、見えなくなった大人が出てくるのを期待する。</li> <li>・自分でやってみたい気持ちが芽生える。</li> <li>・「パパ」「ママ」などの発語が見られる。</li> <li>・要求したり援助を求めたりするときに、周りの関心を引こうとして発語する。</li> <li>・容器に物を入れる、かぶせる、載せる、合わせるなどをするようになる。</li> <li>・自他を区別できるようになってくる。</li> <li>・物を布などで隠すと中身を確かめようとする。</li> <li>・高さ、深さ、奥行き、裏側などを探ろうとする。</li> <li>・クレヨンを持って左右の往復運動をし、なぐり描きが始める。</li> </ul>
人 と の か か わ り	協同  信頼  規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のしていることに興味を示し、自分もしようとする。</li> <li>・相手から「ちょうだい」と求められると物を渡そうとする。</li> <li>・物を打ち合わせたり積んだりする。</li> <li>・他の子供が持っている物に手を出したり、相手に物を渡したりする。</li> <li>・いやいやをしたりバイバイをしたりする。</li> <li>・褒めてもらおうと喜んだり、叱られたことが分かったりするようになる。</li> <li>・大人の言葉のほとんどを理解し、要求された行動をしようとする。</li> </ul>
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣  運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手づかみで食べようとする。</li> <li>・コップを両手で持って飲む。</li> <li>・大人がスプーンを持つ手に、手を添えてくる。</li> <li>・起きている時間が長くなり、時間帯が少しずつ1回寝に近づく。</li> <li>・つかまり立ちをしたり、伝い歩きをしたりする。</li> <li>・手押し車や箱などを押しながら歩く。</li> <li>・意図的に物を投げたり置いたりする。</li> <li>・両手で物を持ち、手渡す。</li> <li>・はいはいや高ばいで階段の上り下りをする。</li> <li>・はいはいからお座りが自由にできるようになってくる。</li> <li>・臥位、座位、つかまり立ち、伝い歩きの間で自由に姿勢を切り換えることができ始める。</li> </ul>

### <援助のポイント>

- ・手、指、足腰を使って探索活動を十分にできるようにする。
- ・自分の意思をもち始め自分でやりたがる時期なので、子供の主張をある程度かなえてから、大人の意図する方向に気持ちを向けていくようにする。
- ・保育者が子供の発見を言葉にしたり、物を媒介としたやり取りを行ったりする中で、子供のできた喜びを一緒に感じ、表情や言葉で伝える。
- ・散歩に出掛け、自然や生き物に触れて楽しむ機会を多くもち、子供の関心を広げていく。

### <家庭との連携>

- ・つかまり立ちや伝い歩きをするようになってくるので、しりもちや転倒などに気を付け、危険のないように注意する。
- ・そしゃく能力が獲得できるよう、「かみかみゴックン」と言いながら大人が口を動かして見せるなど、具体的な方法を知らせる。
- ・はいはいが十分ではない子供には歩かせることを急がず、はいはいの経験を重ねる大切さを発達の見通しと合わせて伝える。
- ・動いても腹部が出にくい、ひっかかりにくい、伸縮性があるなど、この時期の体の動きに応じた動きやすい服装を知らせる。



## 1 歳児の発達（1 歳頃～1 歳 3 か月頃）

学 び の 芽 生 え	思考  言葉  創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 個の積木を積む、小さい物を拾って穴に入れるなど、目と手を協応させた細かい動きができるようになってくる。</li> <li>・ 小さな虫を見付けると触ってみようとする。</li> <li>・ 玉通し、型落としができるようになってくる。</li> <li>・ 物を出したり、入れたりすることを喜ぶ。</li> <li>・ 簡単な言葉と動作が結び付くようになる。</li> <li>・ 音楽に合わせて体を動かす。</li> </ul>
人 と の か か わ り	協同  信頼  規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物を介しての保育者とのやりとりを、保育者の反応を楽しみながら、何度も繰り返す。</li> <li>・ いつも一緒にいてくれる保育者に甘えたり、思い通りにならないと泣いて助けを求めたりする。</li> <li>・ 保育者のすることに興味をもったり、まねをしようとしたりする。</li> <li>・ ほしい物があると、「ちょうだい」としぐさや言葉で伝えようとする。</li> </ul>
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣  運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昼寝は1日1回となる。</li> <li>・ 完了食になる。</li> <li>・ スプーンを持って自分で食べようとする。</li> <li>・ こぼすことも多いがコップを持って飲めるようになる。</li> <li>・ 衣類の着替えのとき、手足を入れようとする。</li> <li>・ つかまり立ち、伝い歩き、はいはいで階段の上り下りをする。</li> <li>・ 一人で立てるようになり、何度も繰り返す。</li> <li>・ 自分で1歩を踏み出してみたり、両手を上げて2、3歩歩いたりする。</li> <li>・ 箱車を押して歩く。</li> <li>・ 手の指が細かく動くようになり、親指と人差し指でつまめるようになる。</li> <li>・ おもちゃのラッパを吹いて音を出すなど、吹く力が付いてくる。</li> </ul>

### ＜援助のポイント＞

- ・ 空腹を感じて食事をしたり、眠くなって昼寝をしたりするなど、欲求が満たされて満足することの実感を重ねられるように、子供一人一人の状態を把握して対応する。
- ・ 一人遊びがじっくりと楽しめるような空間や玩具を用意しておく。
- ・ 言葉や動作を子供が模倣しやすいようにゆっくりと大きく表すようにし、子供の言葉に丁寧に対応していく。
- ・ ままごとなど、簡単な言葉や動作のやりとりのできる遊びを、十分に取り入れていく。

### ＜家庭との連携＞

- ・ 伝い歩きや一人歩きを始めるので、転倒に気を付けながら、動く楽しさや探索する楽しさを十分に味わうことの大切さを伝える。
- ・ 離乳食への移行の際は、卵など初めて食べる食材は家庭で試してもらって状況を伝えてもらうとともに、そしゃくや飲み込みの状態を確認しながら完了食へ移行していく。
- ・ 空腹を感じて催促するなど欲求を表すことの大切さを伝え、大人が先回りしすぎずに待ち、子供が自分の意思を表す機会を大事にしてもらえるようにする。
- ・ 睡眠時間や食事の時間、食べた量などを家庭と連絡し合い、安定したリズムで生活できるようにしていく。

## 1歳児の発達（1歳3か月頃～1歳6か月頃）

<b>学びの芽生え</b>	<b>思考 言葉 創造</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害物をよけて回り込んだり方向転換したりして、行きたい場所に行くことができる。</li> <li>・歩行が安定し、行動範囲とともに興味が広がり、探索活動が盛んになる。</li> <li>・ティッシュペーパーの箱の中に入っているものを全部出すことを楽しむ。</li> <li>・積木を3個以上積む。</li> <li>・ものの名前を覚え、片言が盛んになる。</li> <li>・自分の名前や保育者の名前が分かってくる。</li> <li>・たくさんの絵の中から「うさぎ」「リンゴ」など聞かれたものを探し、見付け出す。</li> <li>・お気に入りの絵本やお気に入りのページを何度も読んでほしがる。</li> <li>・保育者のまねをしながら、よく聞く歌と一緒に歌う。</li> <li>・歌に合わせて手をたたいたり、太鼓や鈴など音の出る玩具を鳴らしたりする。</li> </ul>
<b>人とのかわり</b>	<b>協同 信頼 規範</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人形をトントンとしながら寝かせる、おんぶをする、食べさせるまねをするなどして遊ぶ。</li> <li>・ままごとをして食べるまねをしたり、保育者に食べさせようとしたりする。</li> <li>・保育者と一緒に触れ合い遊びをすることを喜ぶ。</li> <li>・自分の要求を簡単な言葉や指差し、しぐさなどで伝えようとする。</li> <li>・自分の思い通りにならなかつたり、自分のほしい玩具を他の子供が使っていたりしたときにかみついたり、ひっかいたりすることがある。</li> <li>・いけないことをして注意をされると、泣いたり、しょんぼりしたりする。</li> <li>・泣いている子供がいると顔をのぞき込んだり頭をなでたりする。</li> </ul>
<b>生活習慣・運動</b>	<b>基本的な生活習慣 運動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプーンを持って自分で食べようとする。</li> <li>・好きな食べ物、嫌いな食べ物が出てくる。</li> <li>・両手でコップを持ち、ほとんどこぼさずに飲む。</li> <li>・おむつではあるが、排せつした後で動作や表情で知らせることがある。</li> <li>・衣類の着替えのとき、ボタンを外してもらおうと自分で脱ごうとする。</li> <li>・歩行が安定し、歩くことが楽しくなる。</li> <li>・後ずさりで歩く。</li> <li>・ソファなど少し高い所によじ登る。</li> <li>・階段を手すりにつかまって足踏み式で上る。</li> <li>・滑り台をよじ登ってうつ伏せで滑る。</li> </ul>

### ＜援助のポイント＞

- ・保育者に自分の気持ちを安心して表し、受け止められる心地よさを感じられるようにする。
- ・子供が自由に探索活動を楽しめるようにし、一人一人の欲求が十分に満足できるようにする。また、戸外では、土、砂、石、水、木の葉や虫等の自然物に触れ、諸感覚を十分に働かせる経験を重ねていく。
- ・押す、引っ張る、転がすなどの全身運動や、つまむ、ちぎる、たたく、握るなど手を使う遊びを十分に経験させていく。

### ＜家庭との連携＞

- ・行動範囲の広がりとともに探索活動が盛んになる時期であることやその意味を伝え、安全には十分に配慮しながら子供の興味や関心を見守り、子供の発見に共感していくことの大切さを伝えていく。
- ・子供と一緒に楽しく食事をする中で、興味をもたせたり食べ方を見せたりすることの大切さを知らせる。その際、家庭や子供の状況に応じて無理なく進められるよう、支えていく。

## 1歳児の発達（1歳6か月頃～1歳9か月頃）

学 び の 芽 生 え	思考  言葉  創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積木を自動車や電車に見立てて遊ぶ。</li> <li>・カップに砂を入れたり出したりして遊ぶ。</li> <li>・発語が盛んになる。</li> <li>・保育者の言葉を聞いてところどころ繰り返したり、言葉の語尾をまねたりする。</li> <li>・保育者の簡単な言葉掛けや指示が分かるようになる。</li> <li>・フックに物を掛けたり外したりする。</li> <li>・自分の手に合った容器のふたの開閉をしようとする。</li> <li>・絵本のページを一枚ずつめくる。</li> <li>・粘土をちぎったり丸めたりする。</li> <li>・左右に大きく手を動かし、線を描いたり紙いっぱいにごろごろと描いたりする。</li> <li>・水に触れることを喜ぶ。</li> </ul>
人 と の か か わ り	協同  信頼  規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者を相手に「どうぞ」「ありがとう」などとやり取りをする。</li> <li>・名前を呼ばれると「はい」と応える。</li> <li>・ほしいものがあると「ちょうだい」と言って保育者にもらいにくる。</li> <li>・「待っててね」と言われると、少しの間待つようになる。</li> <li>・遊んだ後の玩具を保育者と一緒に決まった場所に片付ける。</li> <li>・自分でできないときは、指を差したり助けを求めたりして保育者に伝えようとする。</li> <li>・友達が同じような玩具を使っていると取り合いになることもある。</li> <li>・自分の物や友達のをよく覚えていて、区別が付くようになってくる。</li> </ul>
生 活 習 慣 ・ 運 動	基本的な 生活習慣  運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こぼしたりはするが、スプーンを使って自分で食べようとする。</li> <li>・排尿したときに、表情やしぐさで知らせたり「チーチー」と言葉で言ったりする。</li> <li>・ボールを両手で持って投げたり転がしたりして遊ぶ。</li> <li>・歩き方が速くなり、歩行での転倒が少なくなる。</li> <li>・後ずさりで歩く。</li> <li>・股のぞきができるようになる。</li> <li>・くぐったりまたいだりして遊ぶ。</li> <li>・滑り台を滑る。</li> <li>・水道の蛇口をひねる。</li> </ul>

### ＜援助のポイント＞

- ・保育者に甘えたり、言葉やもののやり取りをしたがったりする姿を十分に受け止めて温かく応じ、安心感や信頼感をもてるようにする。
- ・周囲の物に関心をもち、いろいろな物に触れて遊びたがる時期である。安全への対応を十分に行った上で、子供の行動をむやみに禁止せずに動きや探索の体験を見守っていく。また、全身を使って遊ぶ経験ができるようにする。
- ・一人遊びが十分にできるように、興味をもった遊びを楽しめる場や物、時間の保障をする。

### ＜家庭との連携＞

- ・規則正しい食事と睡眠は子供の心と体の成長にとっても大切であるため、整った生活リズムで過ごしていけるよう伝えていく。
- ・おむつがぬれていないときはトイレに誘い、便器に座ってみたり排尿したりする経験を少しずつ重ねていけるように伝える。
- ・好奇心旺盛で何でもやってみみたい時期なので、目を離さず、身の回りの安全に十分気を配っていくことを伝える。



## 1歳児の発達（1歳9か月頃～2歳頃）

学びの芽生え	思考  言葉  創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物事への興味が高まり、何でも自分でやってみようとする。</li> <li>・身の回りの物に名前が付いていることが分かってくる。</li> <li>・物を容器に集める。</li> <li>・小さな積木を積む。（8個程度）</li> <li>・衣服の着脱に興味を持ち始める。（ボタン、スナップ、ファスナー、靴下等）</li> <li>・大人の言ったことや言葉の調子をそのまままねようとする。</li> <li>・語彙が増え、二語文を話すようになる。</li> <li>・保育者や友達の名前を言うようになる。</li> <li>・ぐるぐると丸を描いたり曲がるが縦線を描こうとしたりする。</li> </ul>
人とのかかわり	協同  信頼  規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人に追いかけられるのを好み、後ろを振り返りながら喜んで逃げる。</li> <li>・子供同士で手をつないだり、つながれたりする。</li> <li>・友達のしぐさや行動をまねて同じように楽しもうとする。</li> <li>・自我が芽生え、保育者の促しに「いや」「ダメ」と拒否をするようになる。</li> <li>・友達の持ち物が分かり、帽子や靴などをその子に手渡そうとする。</li> <li>・自分の意思をはっきりと示すようになり、物の取り合いなどが生じるようになる。</li> </ul>
生活習慣・運動	基本的な生活習慣  運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こぼしながらもスプーンを持って、自分で食べようとする。</li> <li>・1回の排せつ量が多くなる。</li> <li>・一定時間昼寝をする。</li> <li>・歩行が安定し、長い距離を喜んで歩く。</li> <li>・その場で跳ぶことができる。</li> <li>・手すりや横の壁につかまりながら一段ずつ、時には足を交互に出して階段を上る。</li> <li>・斜面や段差の上り下りをする。</li> <li>・しゃがんで遊ぶ。</li> <li>・ボールを蹴る。</li> </ul>

### ＜援助のポイント＞

- ・手、足、全身の運動機能の発達を見極め、斜面や段差を上る、でこぼこ道を歩くなど個々に合った運動遊びが経験できるようにする。
- ・自分の思い通りにいかないと泣く、拒否する、かみつくなど感情的に混乱する場面が多い時期である。言葉だけで言い聞かせるよりも子供の気持ちを全面的に受容し、受け止められている安心感をもたせ、情緒の安定を図るようにする。
- ・指差しや身振り、片言で伝えようとしていることを受け止めて言葉にして返し、子供が気持ちを伝える喜びや言葉を使う楽しさを感じられるようにする。

### ＜家庭との連携＞

- ・子供の成長の表れとして拒否の言葉が多くなるが、子供自身が選んで決められるように「どうしたいの」「どっちがいいの」など大人の提案を投げ掛け、待つことも方法の一つであるなど、具体的な対応の方法を伝えていく。
- ・片言の話に応答したり会話をしたりすることが言葉の獲得や気持ちのつながりになっていくことの大切さを伝える。

## 2歳児の発達（2歳頃～2歳6か月頃）

学 び の 芽 生 え	思 考  言 葉  創 造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積木や簡単なブロックなどを組み合わせたり色々な形を作り出したりして、何かに見立てて遊ぶ。</li> <li>・お気に入りの絵本を、自分で読んでいるように一人でしゃべりながら見る。</li> <li>・「かっこいい」「きれいね」など感じたことを言葉で表すようになる。</li> <li>・「おはよう」「さようなら」など生活に必要な挨拶をするようになる。</li> <li>・鉛筆やクレヨンでぐるぐると曲線を描く。</li> <li>・好きな歌を覚えて歌う。</li> <li>・保育士や友達と簡単なごっこ遊びを楽しむ。</li> <li>・保育士がリズムに合わせて踊っていると手をたたき、リズムに合わせて手足を動かすなど一緒に楽しむ。</li> <li>・自分のイメージのままごと遊びを楽しんだり、大人のつもりになって人形やぬいぐるみを抱っこしたりする。</li> </ul>
人 と の か か わ り	協 同  信 頼  規 範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追いかけたり追いかけられたりしながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。</li> <li>・いつも一緒に遊んでいる友達のことを名前で呼ぶ。</li> <li>・自分のしたいことやしてほしいこと、伝えたいことを言葉で表現するようになる。</li> <li>・自分本位の行動が目立ち、思い通りにならないときはかんしゃくを起こしたり頑固な行動をとったりする。</li> <li>・身の回りのことを「自分で」と言ってやりたがる。</li> <li>・決められた所へ物を出したり入れたりする。</li> </ul>
生 活 習 慣 ・ 運 動	基 本 的 な 生 活 習 慣  運 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手づかみが少なくなり、スプーンを使って食事ができるようになる。</li> <li>・排せつを言葉やしぐさで知らせたり、促されて便器で排せつしたりする。</li> <li>・ボールを使い、投げる、蹴る、追うなどの遊びができるようになる。</li> <li>・走る、跳ぶなどの運動機能が伸びる。</li> <li>・階段を何にもつかまらずに、段ごとに両足をそろえて上り下りする。</li> <li>・運動遊具を使って登る、すべる、跳ぶなどを繰り返し楽しむ。</li> <li>・三輪車に乗り、両足で地面を蹴って進む。</li> <li>・指先を使う遊びに興味をもってやりたがる。（ひも通し、洗濯ばさみで挟む、粘土や紙を丸めるなど）</li> <li>・リズムに乗って体を動かし、踊ったり体操をしたりする。</li> </ul>

### <援助のポイント>

- ・全身運動が滑らかになり、動きが大きくなってくる時期である。遊びの広がりや子供の動線を考慮しながら、遊具などを安全に配置し、体を動かすことを十分に楽しめるようにする。
- ・自分でできることが増えてきて自分で何でもやりたがるが、思い通りにできなかつたり、やらせてもらえなかつたりするとかんしゃくを起こすこともある。子供の気持ちを受け止め、そっと援助しながら、自立に向けての意欲を育てていく。できたときには「できたね」とその姿を認め、その子供なりの満足感や達成感が味わえるようにしていく。
- ・なりきって遊べるような玩具の準備や、コーナーの設定を工夫する。

### <家庭との連携>

- ・二語文を話すようになり、おしゃべりが盛んになってくる。しかし、この時期は言語面でも個人差が大きく、まだあまりしゃべらない子供もいる。しゃべらなくても言葉をため込んでいる時期であるなど個人差があることを伝えながら、どのように話し掛けたり、かかわったりしたらよいかを具体的に知らせていく。
- ・かんしゃくを起こしたり、何でもいやいやと泣いたりしたときに、保護者も子供とどうにかかわったらよいのかと悩むことが多くなる時期である。子供の気持ちの揺れも成長の過程であることを知らせ、突き放すのではなく、子供自身が気持ちを立て直せるように代弁するなど、やさしく見守って待つことの大切さを知らせていく。

## 2歳児の発達（2歳6か月頃～3歳頃）

学 び の 芽 生 え	思 考  言 葉  創 造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤、青、黄、緑などの色が分かる。</li> <li>・大きい小さい、長い短い、同じなどの区別が付き、言葉で表す。</li> <li>・形の違いが分かるようになり、簡単な絵合わせやパズルをする。</li> <li>・「これは」と何度も聞いたり、同じ絵本を「もう一回」と繰り返し読んでもらったりすることを好む。</li> <li>・おしゃべりが盛んになり、自分のことを「Aちゃん、ママと〇〇いったの」などと保育者に話す。</li> <li>・名詞の語彙が増える。</li> <li>・粘土を手のひらでぺったんと押ししたり、細くのばしたりする。</li> <li>・いろいろな物を袋に入れたり、布で包んだりする。</li> <li>・クレヨンで描きながら自分なりに「くるま」「かお」とイメージをもつようになる。</li> </ul>
人 と の か か わ り	協 同  信 頼  規 範	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行遊びだが、友達と一緒に少しの間遊ぶ。</li> <li>・だれかがふざけはじめると一緒になってふざける。</li> <li>・自己主張が強く、物の取り合いになることが多いが、「いいよ」と貸せることもある。</li> <li>・友達の休みや様子などを気に掛ける。</li> <li>・よいこと、いけないことが分かってくる。</li> </ul>
生 活 習 慣 ・ 運 動	基 本 的 な 生 活 習 慣  運 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプーンやフォークを持ち、使い分けて食べるようになる。</li> <li>・ほとんどこぼさずに食べられるようになる。</li> <li>・遊びに夢中になっているとおもらしをすることもあがるが、尿意を知らせてトイレで排せつするようになる。</li> <li>・男児は立ち便器での排せつができるようになる。</li> <li>・衣服の着脱に関心を持ち、脱いだ服をたたもうとしたり、自分でボタンを掛けたり外したりする。</li> <li>・三輪車やスクーターを片足で蹴ったり、三輪車をこいだりする。</li> <li>・平均台(高さ20cmくらい)を横歩きで渡ったり、30cmくらいの高さから跳び下りたりする。</li> <li>・鉄棒にぶら下がったり、ジャングルジムによじ登ったりする。</li> </ul>

### ＜援助のポイント＞

- ・排せつの自立は個人差があるため、一人一人の排尿間隔を確認し、タイミングをみながらトイレに誘っていく。いつまでも便器に座らせておくことはせず、「おしっこ出ると教えてね」と伝え、無理なく自分でできた喜びにつなげる。
- ・身の回りの様々な物に興味や関心が広がり、やってみたい、使ってみたいという欲求が出てくる時期である。保育者の見守りの中で十分に体験できるようにしていく。

### ＜家庭との連携＞

- ・着替えも全部自分でやりたいと興味が出てくる時期である。子供が自分で着替えやすく、できたうれしさを感じられるよう、扱いやすいボタンやスナップの大きさや場所などを具体的に知らせていく。
- ・保護者が子供にやって見せたり、今後、子供の様子に合わせて教えたりするときの参考になるよう、箸やスプーンなどの段階を追った持ち方、使い方やトイレットペーパーの切り方、たたみ方、拭き方など、必要な情報を伝えていく。
- ・基本的な生活習慣を身に付けていけるよう、家庭での方針を聞きながら、その子供に応じた時期や方法を家庭と園で共に考えて、進めていく。